



Influence of prostate stem cell antigen gene polymorphisms on susceptibility to Helicobacter pylori-associated diseases: a case-control study

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2017-06-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 市川, 仁美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3198

論文審査の結果の要旨

前立腺幹細胞抗原 PSCA の多型 rs2294008 は、スキラス型胃癌のリスク因子として Genome Wide Association Study によって、坂本らにより 2008 年に同定された多型である。その後、rs2294008 の C アレル保持者が十二指腸潰瘍発症に、T アレル保持者が胃癌発症に関与している可能性が報告された。申請者はヘリコバクター感染者の胃潰瘍、萎縮性胃炎、十二指腸潰瘍および若年対照群、合計 754 例について、この多型の評価を行った。感染の有無、萎縮の程度を複数の検査法で評価し、年齢・性別調整をした上で比較したところ T アレル保持者 (CT/TT 型) は、*H. pylori* 陰性健常者と比較して、胃癌 (OR: 1.71、95% CI 1.01-2.79、 $P=0.045$)、萎縮性胃炎 (OR: 2.04、95% CI 1.12-3.71、 $P=0.020$) のオッズ比は有意に高かった。その一方で、十二指腸潰瘍症例では、*H. pylori* 陰性健常者と比較して、有意に T アレル保持者でそのリスクが低い結果となった (OR: 0.43、95% CI 0.24-0.79、 $P=0.006$)。また、十二指腸潰瘍症例と比較すると、T アレル保持者 (CT/TT 型) は、胃癌 (OR: 3.97、95% CI 2.02-7.80、 $P<0.001$)、胃潰瘍 (OR: 2.40、95% CI 1.13-5.10、 $P=0.023$)、萎縮性胃炎 (OR: 4.72、95% CI 2.26-9.86、 $P<0.001$) のオッズ比は有意に高かった。この結果ヘリコバクター感染者においても PSCA の T アレル保持者は胃癌の発症リスクが高いと結論し、除菌療法の適応がさらに推奨されるとした。胃癌のリスク評価について実用的な指標を明確にしたという点で博士論文としてふさわしいと評価された。

以上により、本論文は博士 (医学) の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 梶村 春彦

副査 須田 隆文

副査 和田 英俊